令和６年２月２６日

清水町議会議長　山　下　清　美　様

清水町議会厚生文教常任委員会
委員長　　川　上　　均

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

１．調査事項　　学童保育所の現状と課題について

２．調査期日　　令和６年２月７日

３．調 査 先　　子育て支援課

４．調査の結果

放課後児童クラブは、女性の社会進出に伴う共働きや一人親家庭の増加により、放課後に子どもたちが安心して過ごせる居場所として重要な役割を担ってきた。国が進めてきた「新・放課後子ども総合プラン（平成30年～令和５年)」の終了に伴い、その理念や掲げた目標等の達成に向けた新たな「放課後児童対策パッケージ」が発表され、それに基づく取り組みが求められている。

現在、清水地区においては児童館で運営されている学童クラブだが、児童館の老朽化により閉鎖し令和６年度から、「放課後子ども教室」を設置している清水小学校へ移転して一体的に運営するため、改修を予定していることから、御影学童クラブと併せてその現状と今後

の課題を探るため、子育て支援課と意見交換を行い、調査を実施した。

【子育て支援課】

はじめに子育て支援課職員より、町内学童クラブ等の在籍者数、清水学童クラブの運営経過、放課後子ども教室の歴史、小学校余裕教室の活用及び令和６年度の清水小学校への移行スケジュール等について、資料を中心に説明を受けた。その後移動し、清水小学校の学童クラブ予定箇所、現在の清水学童クラブ、そして御影学童クラブを視察し順次説明を受けた。

令和５年度４月１日現在の清水第一学童クラブの登録者数は65人、清水第二学童クラブの登録者数は65人で実質の利用者は約70人となっている。御影学童クラブの登録者数は75人で実質利用者は約半数、放課後子ども教室は登録者数57人で実質利用者は約10人でバス待ちが約35人となっている。

清水学童クラブの運営経過では、当初は、社会教育課所管の「かわうそ教室」（放課後子ども教室の前身）と子育て支援課所管「学童クラブ」をそれぞれの施設で事業展開していたが、平成22年４月からはバス待ち児童も含めた放課後の居場所づくりのため、小学校の余裕教室において両課が連携して運用していた。平成25年４月からは子育て支援課が学童クラブを主体として両事業を運営しており、平成29年度からは児童の利用増に伴い児童館を改修し、学童クラブは児童館において、小学校では、バス待ち児童を含む放課後子ども教室を運営してきた。

今後の運営スケジュールでは、令和６年５月から８月を目途に清水小学校の学童予定教室等の改修を行い、その後９月に移動を予定しており、改修後の教室で学童クラブと放課後子ども教室を一体的に運営し、バス待ち児童は学校内の他の場所を使うとの説明があった。

現地視察において、清水小学校の学童クラブ予定箇所では、学校側と学童クラブを明確に区分し、玄関や廊下及び各教室を改修してＬＥＤ化や学童クラブに合わせた内装にするとの説明を受けた。

その後移動し、現在の学童クラブでは、施設自体の老朽化と廊下や体育館及びトイレなど手狭な中で、いかにして子どもたちが伸び伸びと過ごせる環境をつくるか苦心しているとの説明を受けた。御影学

童クラブは世代間交流センターの２階部分で運用しているが、バス待ちの児童を含めると若干手狭であるが、運動場も含めスペースと機能を備えているなどの説明を受けた。

【総括】

登録者数と実際の利用者数の差については、親の仕事や病気等により、利用せざるを得ない場合を想定し登録だけを行う、また６年生まで登録可能であることから、高学年になると友達と遊びに行くなど利用しないケース等がその理由とのことであった。現在の指導員の数（放課後子ども教室分も含む）は、清水学童クラブで５名（こども園長含む。会計年度２号職員４名（うち、有資格者である保育士1名、放課後児童支援員２名））、御影学童クラブは３名（職員１名、会計年度２号職員２名（保育士、放課後児童支援員各１名））で運営されている。清水ではバス待ちの児童も多く、今後は教員が対応するが支援員も配置し出欠確認等も含めた安全対策の強化を考えているとの説明を受けた。

一方で、小学校の余裕教室の活用で期待できる効果の一つとして、学校と学童クラブが情報共有しやすく、家庭・学校・地域の連携が深まるとの説明を受けたが、体育館利用における少年団活動や各種行事等と棲み分けての活動等、詳細については学校側と今後協議の予定とのことであり、十分な連携を望みたい。また、委員からは「保護者の声も聞いて関係機関と十分連携を取って進めて欲しい」、「１箇所に集約することにより支援員も集中配置でき、余裕教室の活用は学童クラブにとって良い環境となるのではないか」、「御影学童クラブの遊技場にエアコンが必要である」などの意見が出された。

総じて、町の放課後学童クラブの環境整備は整ってきたが、今後の運営における学校側との連携をはじめ、国の放課後児童対策パッケージにある学校運営協議会やコミュニティ・スクールの仕組みを活用した放課後児童対策の推進など、関係機関との連携をどう構築していくかは今後の課題である。

また、放課後子ども教室においては地域の人々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを少しずつ行っているが、子どもたちが地域社会の中で

心豊かで健やかに育まれる環境など、多様な居場所をつくる体制整備も求められており、今後の更なる取り組みを望むものである。

現在、大部分が会計年度２号職員であるが、町は処遇の改善や支援員研修の充実を図り、これらの機能に対処できる体制整備に努めることを要望したい。

最後に、今回は日程的に実施できなかった学童クラブを受け入れる学校側も含めた再度の調査を検討したい。

以上、厚生文教常任委員会の所管事務調査の報告とする。